

# 〈 東北・新潟の活性化応援プログラム 〉 2018年 助成団体活動成果レポート

助成団体

## ONE-LINE 実行委員会

宮城県気仙沼市

プロジェクト名

### ONE-LINE ～気仙沼イルミネーション～



#### ■地域の紹介

気仙沼市は、宮城県の北東端に位置しています。漁業が盛んで、沿岸漁業・養殖漁業、沖合漁業、遠洋漁業の拠点として機能し、造船から水産加工まで幅広い水産業が行われています。また、リアス式海岸特有の美しい景観やフカヒレをはじめとした海の幸に恵まれた観光地としても発展しています。

#### ■地域の課題

東日本大震災により甚大な被害を受けた気仙沼が復興に向けて立ち上がるための環境をつくるのが課題と考えています。

#### ■当団体の紹介

気仙沼市内湾エリアをイルミネーションで輝かせるイベント「ONE-LINE」を開催し高齢者や子どもたちを対象とした交流事業等も実施することで、地域全体を笑顔にするとともに、交流人口の拡大と地域経済活性化を目指します。





## プロジェクトの概要

### ■背景・目的は？

ONE-LINE～気仙沼イルミネーション～は、東日本大震災により真っ暗になってしまった気仙沼に希望のヒカ리를灯そうと2012年に始まりました。震災で傷ついた子どもたちに笑顔の花を咲かせ、津波によって失った海に対する親和性を取り戻し、「海と生きる」ことを決意した気仙沼市を後押しすることを目的としています。また、観光産業を始めとする地域経済にも貢献し、最終的には気仙沼の冬の風物詩として定着させたいと考えています。これまでは考えられなかった大規模な催事を開催することにより、こんな田舎でも「思いがあればどのようなことでも実現できる」というメッセージを同世代の方に伝え、輝かしい復興に向けて立ち上がってほしいという願いから始めた活動になります。

### ■具体的な活動は？

#### 1. 実施日時（期間）

2019年12月6日（金）～2020年1月13日（月）

#### 2. 実施場所

内湾地区（商業施設「ないわん」・新公共施設・南町紫神社商店街・みしおね横丁）、  
八日町エリア（市役所・東北電力）、  
学校施設、  
災害公営住宅等

#### 3. 実施内容

オープニングイベント（歌手のMay J.によるライブ、飲食ブース等）  
表参道櫺会と連携したイルミネーションイベント  
災害公営住宅・市内商店街・学校施設等へのイルミネーション装飾

#### 4. 動員数

オープニングイベント：5,000名  
期間中の来訪者：60,000名

#### 5. 参加者の声

- ・毎年楽しみにしているし、開催してくれてありがたい。
- ・今年はイルミネーションもグレードアップして嬉しい。特に栈橋のイルミネーションが綺麗!!
- ・毎年歌手のMay J.さんを始めとするアーティストが来訪してくれるなんて本当に凄いことだと思う。
- ・毎年楽しみにしていた冬花火がなくなって残念。



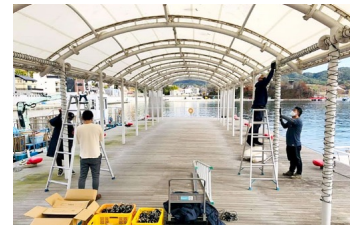
事前に電飾の点灯チェック



一つひとつ丁寧に設置



根気の要る作業です



仲間と協力し合っ



## ■活動の成果は？

持続可能な開催を目指し、一つの目玉になっていた冬花火を取りやめました。これにより予算額も前年比の60%まで圧縮することができ、例年発生していた実行委員会有志による自己負担費用を抑えることに成功しました。また、これまでの実行委員会中心であった取り組みを行政や各商店会、地域コミュニティに委ねることによりイルミネーションの装飾を行うエリアが拡大しました。また、8回目の開催にして、ようやく地域の方々の間で本イベントに参加しようという気運が高まってきました。私たちが目指している「町中をピカピカに!!」という最終目標へ一歩近づいたと考えています。

行政が協力的になったことが一番の要因ではありますが、東北電力の気仙沼電力センターの皆様によるご協力があったことや、八日町エリアに少しでもヒカリを増やそうと佐々木所長自らが気仙沼商工会議所の建物にイルミネーションの装飾をしてくださったというエピソードを聞いた時には、本当に感動しました。

このアクションによって次年度以降も気仙沼商工会議所でのイルミネーション装飾が継続されることが決定しました。



きれいな光で彩られました



水面に映る光で幻想的な雰囲気



歌手のMay J.さんによるライブ



子どもたちも笑顔でダンスパフォーマンス!

## 団体からのコメント

本プロジェクトについては継続して開催していきたいと考えています。現在よりもイルミネーションのグレードアップを目指し、行政や関係団体との連携を深め、資金面の課題も含めて解決していきたいと思えます。本プロジェクトを市民参加型の催事へと昇華させるため、参加者の意識の醸成を図る取り組みを企画してまいります。

また、持続可能な団体になるために実行委員会の拡大を検討しており、行政や関係団体にも実行委員に加わっていただくことにより、強固な組織づくりを目指します。将来的には現在資金確保の関係でやむなく断念している、人気の冬花火を復活させ、「宮城県クリスマス市」と名乗っても恥ずかしくないような催事にしたいです。

財務面・人材面での課題はありますが、組織強化を中心に解決していきたいと考えています。

